凡事徹底(縁)

八代第一中学校
生徒指導通心
第18号　2023.9.29（金）

校訓：一中生徒としての最善最高の自覚と実践　　綱領：至誠貫徹･真理探究･耐久持続
学校教育目標：『みんなが安心して笑顔で過ごせる学校』
スローガン：『夢実現・自己実現』～笑顔と挑戦　一中プライド～

夢実現･自己実現に向けて～もし自分に責任があったら何ができただろうか～

「ここを決めれば逆転だ！」というフリースローを外してしまった。９回２アウト満塁、素晴らしいピッチングで凡打に抑えたと思ったのも束の間、ショートがタイムリーエラー．．．。こんなシーンは学校生活の中でも何度も見られる光景です。

すると、ついつい「何やってんだ」と怒鳴り、自分の考えを一方的に押し付けながら、仲間の失敗を責めてしまう。こんなシーンも何度も見てきました。

しかし、失敗を責めてもチームの雰囲気がよくなることはありません。前進することもなく悪くなるばかりです。「あいつのせいで」と人のせいにするばかりでは、自分自身の成長も止まってしまいます。

「自分にはそのとき、何ができたのだろうか？」という視点を持ち、チームの一員として、チームのため仲間のため、謙虚な心で自分と向き合える人になっていきたいものです。

先日、深夜のテレビ番組で、女子バレーボール日本代表を率いる真鍋政義監督とニュースキャスターとの対談が行われていました。その中で、代表に選ばれた選手を最大限にリスペクトしながら、「強い選手ではなく強いチームをつくっていきたい」、「常に向上心をもち、真に聞く耳を持つ選手ばかりです」、「自分が源泉」という言葉の意味を熱く語られていたのが印象的でした。

例えば、「エースアタッカーが致命的なミスをしてそれで負けてしまった。そのことについて、セッターやレシーバーの責任は何％あるのかな？」と問いかけられるそうです。「いや、私には責任はありません」、「エースのミスでしょう」、「０％です」と答える選手やスタッフは誰一人いません。このような考えで、成長するチームが作れないことを、選手、スタッフ、代表チームにかかわるすべての人達が理解しているからです。

「もし、自分に責任があったとしたら、何ができただろう」、「自分にできることは何があったかなあ」そう考えることができる選手は、仲間のミスを自分の力にすることができます。失敗を責めるのではなく、失敗から学ぶことが出来ます。

立場を変えて考えてみることで、また違うアイディアや改善策が生まれます。スポーツに限らず、学級や学校というチームをよりよくするのは、チームの力ではないでしょうか。みなさんは、この話を聞いて、自分たちのこれまでの歩みと重ねながら、どのように思いましたか。

「夢実現・自己実現」コーナー　「自分が源泉」という物事の見方・考え方

よくない問題が起きてしまったとき、思い通りの結果が出せなかったとき、自分ではなく、誰か他の人のせいにしてしまってはいませんか。源泉とは「物事の始まり」という意味があります。

「自分が源泉」という言葉には、「全ての結果は自分が創っているという立場で物事を捉えていく」という意味があります。続きは通心19号で書いていきたいと思います。